九州産業大学大学院　博士後期課程　芸術研究科　博士学位論文

提出者

氏　　名	張　笑秋
題　　目	作品「Time after Time　－　平静の市場」及び「上海郊外」 論文「1980 年代以降の上海におけるスナップ写真の研究」

審査委員

主　　査 **（指導教員）**	百瀬 俊哉	九州産業大学　芸術学部　写真・映像メディア学科	教授
副　　査	青木 幹太	九州産業大学　芸術学部　生活環境デザイン学科	教授
	渡邊 雄二	九州産業大学　芸術学部　ソーシャルデザイン学科	教授
	ラワンチャイクン 寿子	福岡アジア美術館　学芸員	

審査結果の要旨

本研究では、研究者自身の撮影を体験した視点を含めて、上海におけるスナップ写真をテーマにしている。上海のスナップ写真をどのように読み解くのか、スナップ写真の意味することは何なのか、上海の都市のスナップ写真の変遷はどうあったのかを解明するために、上海の都市スナップ写真を中心に論述している。上海は中国写真が最も早く伝来した都市の一つであり、上海のスナップ写真も社会と共に変化してきた。1980 年代から 2010 年までを 10 年ごとに三期に分け、各時期の代表的な写真家 3 名（合計 9 名）に焦点をあて、彼らに直接会って取材している。写真家たちの作品を理解するうえで、彼らの生涯、創作経験、個性などの背景を取材から明らかにし、スナップ写真の表現方法、人間の意識、心の葛藤、社会の認識、自由などを表現したことを論じている。第一期の上海におけるスナップ写真は、かつての演出写真の方法を疑い、それに反抗し、スナップ写真によって写真の真実と自由を求めた。第一期のスナップ写真は、テーマや表現方法などが変化する時期であった。その後、上海の 1990 年代は、社会発展と文化意識の転換により、グローバル化が進み、混沌としていた。第二期の上海のスナップ写真は、第一期の新しい理念を受け継ぎ、展開し、表現方法はさらに豊かでかつ複雑になった。第二期は上海の写真が急速に発展した時期で、視覚的な表現スタイルとして芸術性が重んじられた時代でもあった。個人（写真家）の目覚めはスナップ写真が近代性を獲得した重要な要因であり、撮る側と見る側の両方が、写真という装置を理解し始めた時期であった。そして第三期では、様々な写真家が上海の都市スナップ写真に新たな力を注いだ。情報のグローバル化に伴い、写真による考え方や写真本体の言語の多様化は明らかになっていった。彼らは創作過程で自分を探し、自分に合った芸術言語を探求していった。21 世紀になり、写真家は自身の情熱でスナップ写真の可能性を探り続け、写真の主体性、社会的貢任、批判精神などを検討したと述べ、さらにスナップ写真の変遷について、日常を単に記録するだけから、都市を通じて自分の心を表現し、独自の理解でその時の社会が現代化していく状況を示し、写真内容の芸術性や創造性を重視してきたと論じている。そして研究者も、一人の写真家として社会に貢献できるような作品を制作していきたいと結んでいる。

スナップ写真の研究を通して、写真が社会とどの様に関わってきたのをしつかりと読み解いており、取材した写真家の体験を調査した研究活動は、自身の作品活動も含めて評価できる。公聴会においての発表内容、質疑応答も的確に回答するなど、研究能力は博士学位に相応しいと判断し、審査委員会での審査の結果、本論文の研究者は博士の学位を授与される十分な資格があるものと認められると判断した。